

収穫感謝・謝恩日礼拝を今年も迎えました。紅葉した落ち葉に、季節の移ろいを感じます。教会歴では、今日が一年の最後の日、どんな思いが湧いてくるのでしょうか。感謝と、祈りと、新たな決意をもって、アドベントを迎えましょう。

献身の年

今朝、心に留めたいみことばは、今年の年間聖句です。神に愛されている私。このメッセージが、はっきり示されているのが、イザヤ 43 章です。今年の 2 月には、京都復興教会はじめて以来の、中国人の姉妹の洗礼式がありました。世界のどこにいても、神様は私たちを捉えてくださる。その恵みを力強く体験しました。確かに世界の 50 億の中で、私という存在は、あっという間に埋もれてしまいます。「お前は無能だ、値打ちなんてない」という騒音が、鳴り響く世界です。しかし、神様はその私にも目を留め、「私の目には、価高く、貴い」と言ってくださっています。

4 月 24 日に、山根芳枝先生が召天されました。間違いなくこの教会にとって、今年の大きな出来事です。個性の強い先生でしたが、その手紙、書籍、アルバム、おびただしいものたちは、紛れもない「主の愛に生きた証し」でした。それも今はもう跡形もなく片付けられて、見る影はありません。生きている間にしかできないこと、それをどう使うかで、人の心に残るものが決まること、それを身をもって教えてくださいました。献身の年にふさわしい、出来事であったことだと思います。

奉仕の年へ

来年は、アシュラムを通じての教会形成 5 年計画最終年です。テーマは「奉仕」。決心を行動に移すチャレンジです。私たちの命は、現在進行形です。今しかできない奉仕があります。「これは、お前にしかできないことや」と言ってもらえる程、嬉しいことはありません。愛された喜びは、与えることでその愛が完成します。嬉しい気持ちは、差し出す時に、より一層輝くのです。「手折らるる人に香るや梅の花」次の世代に、バトンを送るために、主の御心を行う決意を、心に刻みましょう。

スマホに登録された人たちの名前、ラインの友達、町内会のメンバー、学校のクラスメイト、職場の同僚、趣味の仲間、リストを作り、名前をあげて祈りましょう。一人が一人を教会に呼びましょう。イエス様の愛を示すことは、私たちの仕事です。

開心の恵みから、静聴、充満、そして献身と、四年間もかけて、ここまで来たのです。もし、素直に心を開き、応答してきたなら、変化が起きないはずはありません。

もし、自分に厳しい内容だと思うなら、ぜひ、最初の開心から、何度でも再チャレンジしてください。恥ずかしいことはありません。必ず、主はあなたをたてあげてください。なぜならそれは、主の御心だからです。「これは、あなたに頼みたいこと」という主の声が、あなたを待っています。心から祝福をお祈りいたします。